

児童の「つたえよう」を 促すための取り組み



山口県立周南総合支援学校
小学部 杉原大輔



対象児について

小学部5年 男子 脳性まひ

- 強い緊張あり
- 胃ろうより食事を摂取

定位反応	○ 聴覚刺激をじっと聞く、強い音では緊張する様子あり。
探索反応	○ 音が聞こえると、聞こえる方を向く、視線を向ける。
快・不快	△ バスやギターの音で緊張する、お気に入りの曲で笑う。
要求・拒否	— 教員の問いかけには必ず「はい」と応える。
注意喚起	△ 家庭では、排尿の際に「でた」と伝えることがある。
有意語	○ 出会った人に「はよー」、友だちに「あっくん」など

観察から

- 好き嫌いはわかっていて区別できているようだ。
- 問いかけには何でも「はい」と答えている場合がある。
- 自ら思いを伝えることは少ない。



教師がきっかけになるやりとりばかりで、Aくんが伝えたい気持ちをくみとることができていないのでは？

Aくん、今日の天気は？
はれ？

はい。



Aくん、今日の天気は？
あめ？

はい。



自らつたえるためには？



前提 好きなものがある

実態
把握

①好き嫌いを表現できる？



②要求が表現できる？



宿題

③いろいろな場面で表現できる？



何が好きで何が苦手？

これまでの学校生活の中で、打楽器や電子音の鳴る絵本が苦手でお笑いは好きだという情報があった。



本当にそうなのか、記録をとってみる。

音の出る絵本

iPadでお笑い動画

1 好きと嫌いの意思表示

方法

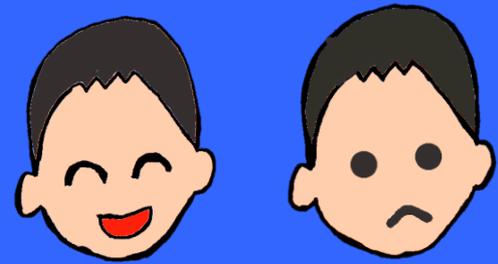
①何もない状態



②iPad お笑い動画を流す



③音の出る絵本 曲を流す

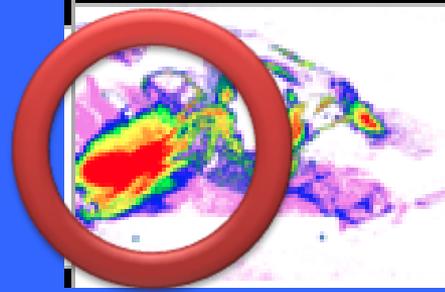
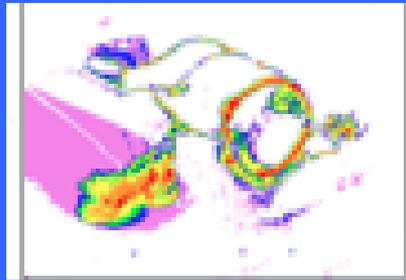
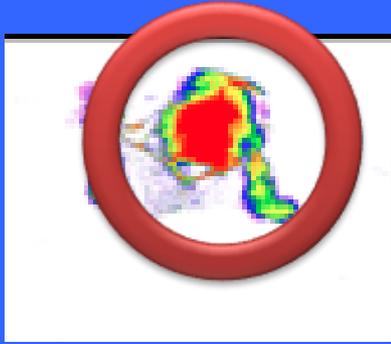


- OAKを用いて、動きから見えてくることを観察する。
- 記録した内容を好き嫌い記録表および3分間記録シートにまとめる。

画像を比較してみると…

30秒
お笑い動画 → オフ

30秒
→ 音の出る絵本 → オフ



お笑い動画では顔が動いて、音の出る絵本では手足が動いている。

提示順を逆にしても…

②音の出る絵本提示

オフ

③お笑い動画提示

オフ

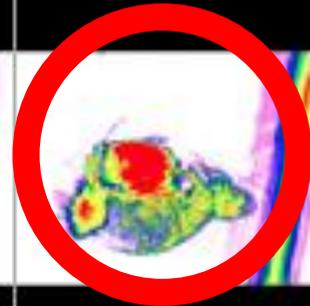
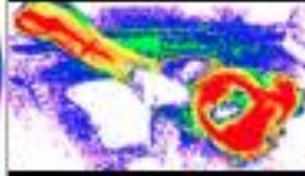
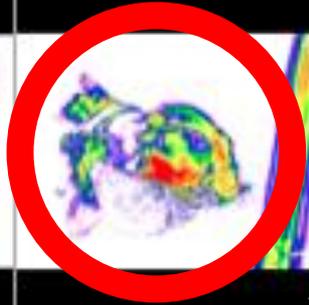
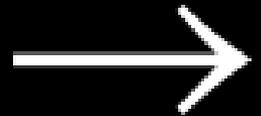
0:00

0:30



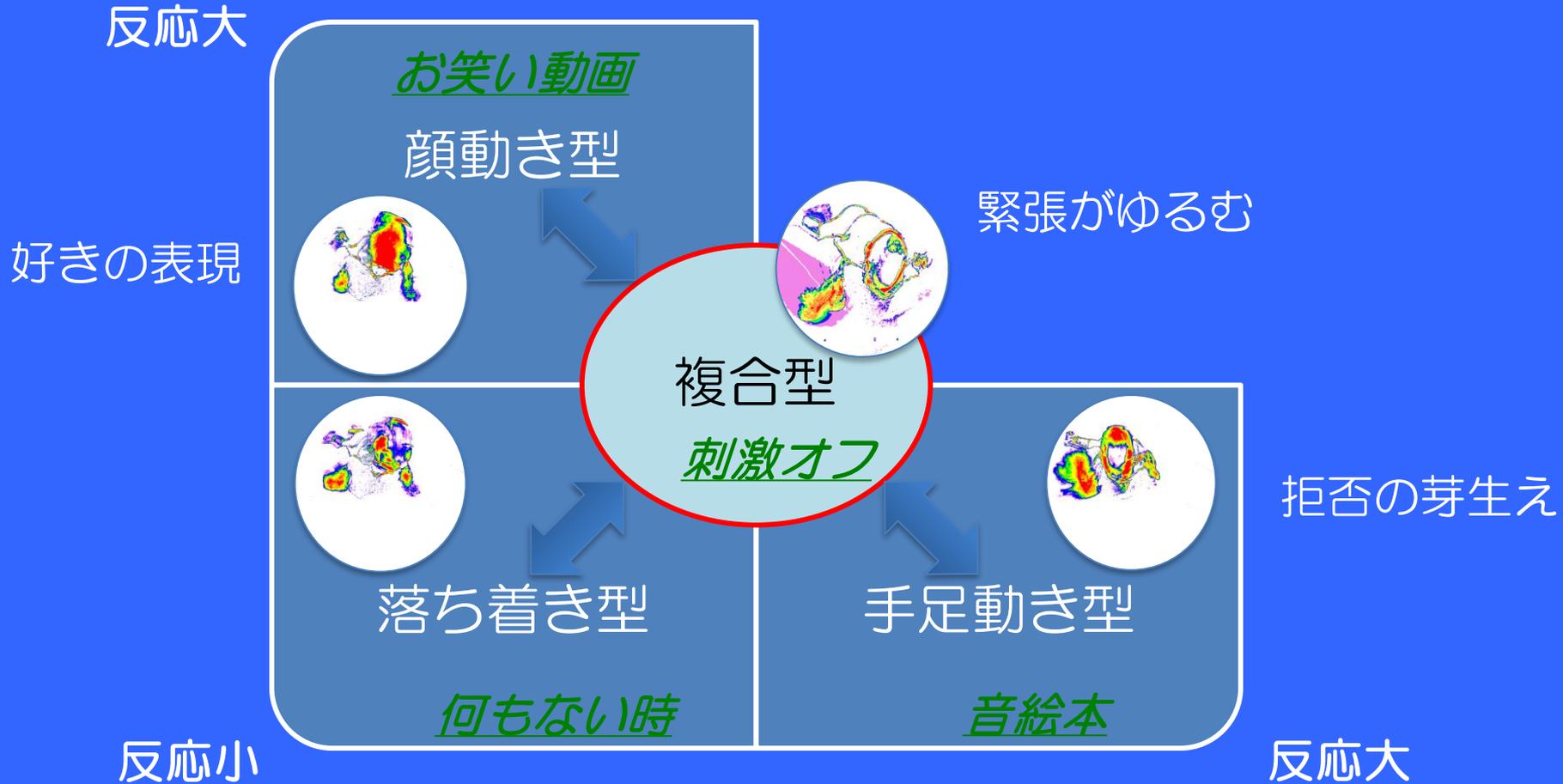
0:00

0:30



お笑い動画では、顔を大きく動かしている。

モーションヒストリー画像分類図



○AKの画像分析に動画撮影による観察を加えて

～「お笑い動画が好きで音の出る絵本が苦手？」を検証～



①お笑い動画

→②オフ

→③音絵本

- お笑い動画→顔が前を向き笑顔…好き
- オフ→顔が左を向き、苦々しい表情…終わって残念
- 音絵本→顔が下を向き足に力が入る…嫌い・拒否

☆ 客観的なアセスメントの良さ…観察では見えない身体の動きの特徴や表情の変化→要求につながるオフ時の反応

2 要求の意思表示

手順

① 好きな動画を再生する



② 動画を止める



③ 待つ

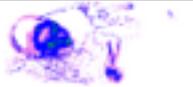
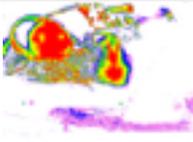
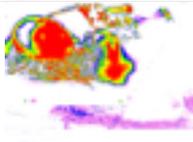
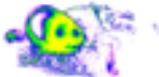
VS
かなね



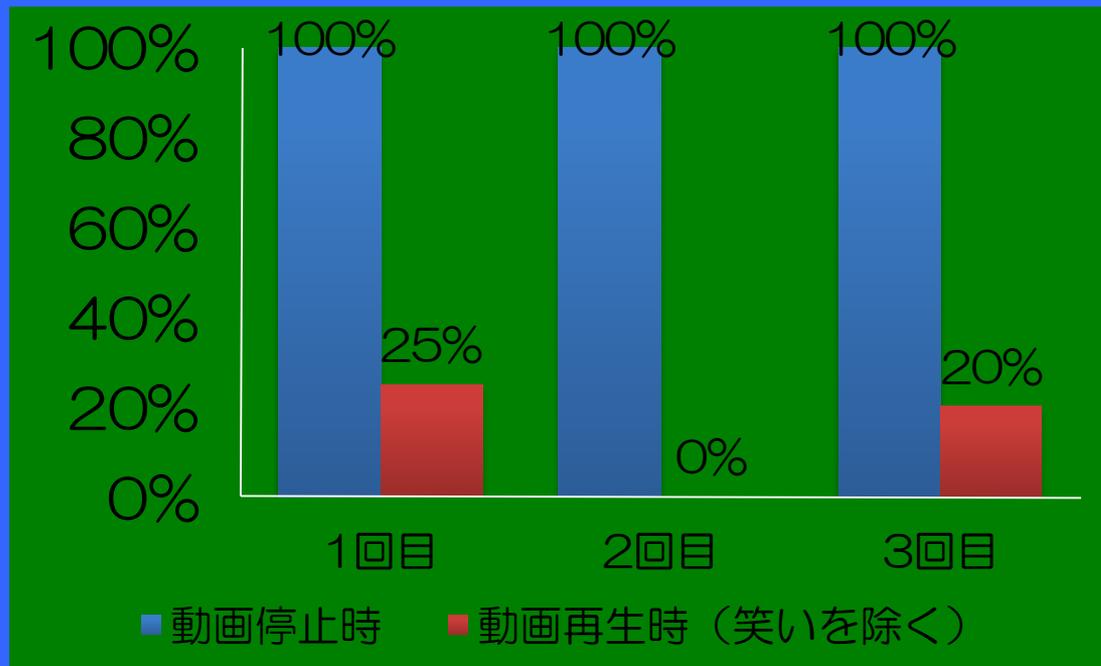
何らかの発声をする。
「はい」「かか」「あああ」など

要求チェックシート

- ①見ていた動画が止まった時に声を出すことができるか。
- ②声を出した際に何秒かかるか。

ターン	タイム	停止→反応までの時間	動画スクリーンショット	観察による補足	OAK画像
①動画再生	0:00				
①停止	0:33				
①待つ					
①児童の反応 (有)	0:53	<u>20</u>		頭を振りながら「あうん」	
②動画再生	0:55				

動画停止時に声で応答があったか。



グラフ1 動画停止・再生時の応答割合

- ①動画停止時には必ず声を出す
- ②動画再生時には声を出すことが少ない

以上の結果から見えてきたこと

- 1 好き嫌いは表現できている。
- 2 声を出して注意を促すことができる。



ただし、学校のしかも自立活動（個別学習）の時間に限られている。

3 宿題の取り組み

～週に1回のチャレンジ～

宿題1 学校の様子を動画で見る。



子どもも保護者も取り組みやすい内容で

宿題2 好きな動画を見る。



学校と同じ手順で

宿題3 家以外でも使う。

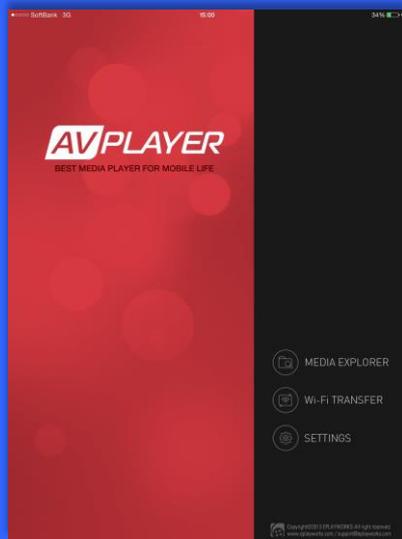
生活への広がりを意識して

宿題に使用したiPadアプリ



AVPlayerHD

動画形式を問わず、再生が可能。お気に入りの動画をストックしておくことができる。



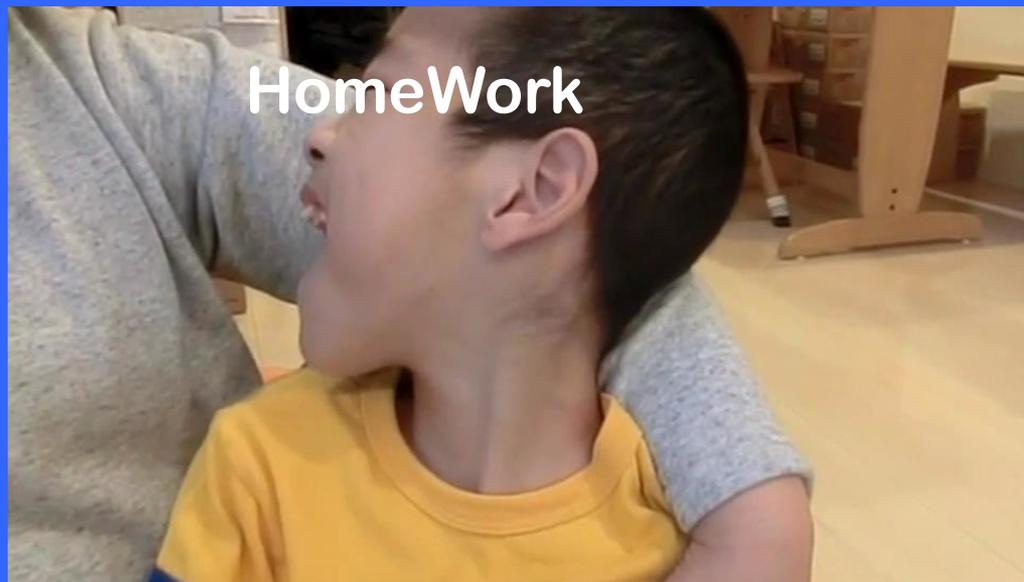
レベルアップToDo

予定をこなすとポイントがもらえ、レベルアップしていくことで達成感を感じることができる。



宿題 1

学校での学習場面の映像を、
保護者と一緒に見る。



宿題セット

- ① iPad
- ② 宿題表



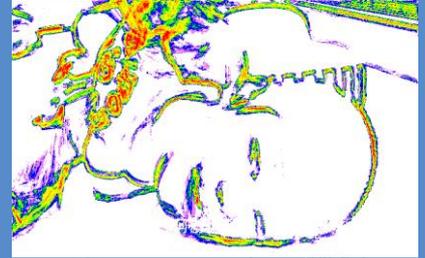
活動場面を保護
者が撮影し、
DVDに焼いて毎
週持参。

宿題2

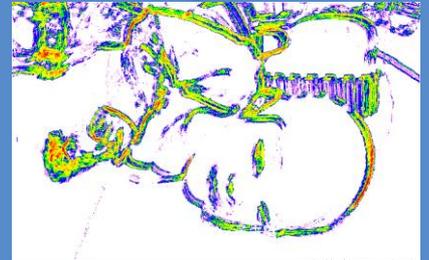
好きなお笑い動画を見る。
動画再生→1分で停止→反応を見る



宿題時のOAK画像



動画再生直後



1分後

緊張が入らずに動画を見る
ことができていた

宿題3

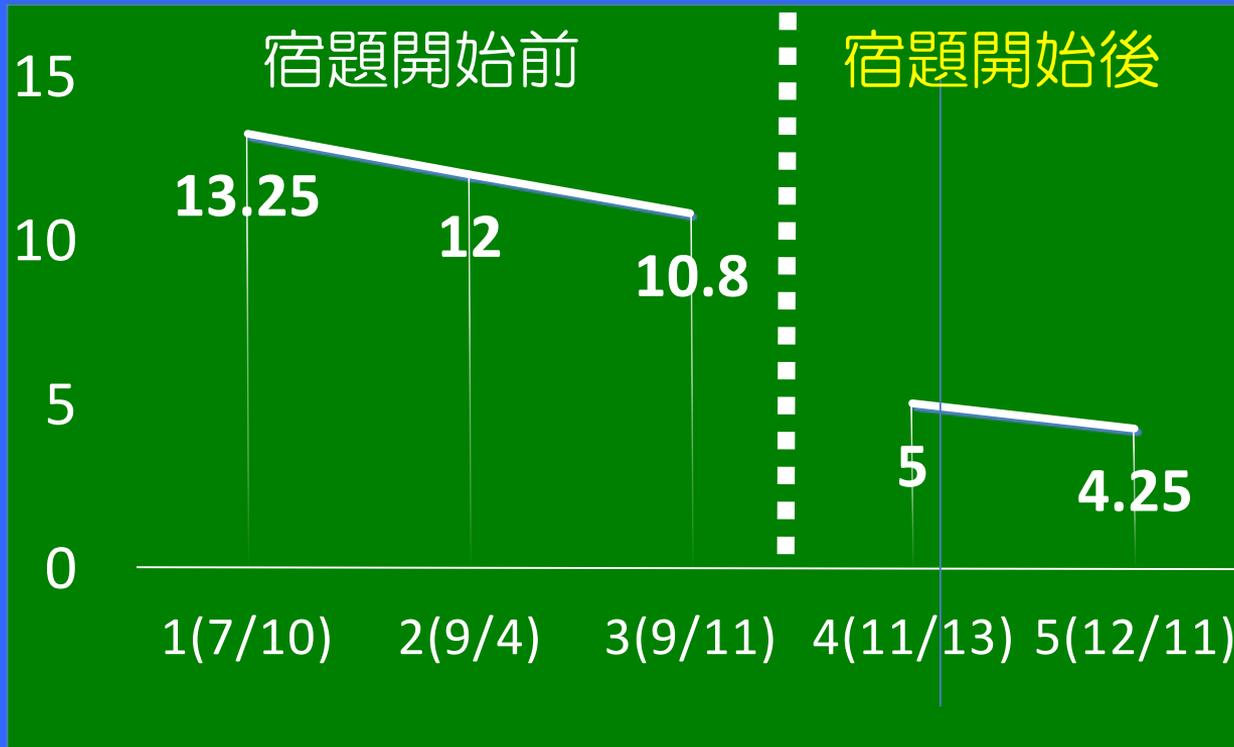
学校での活動動画をリハビリに持っていき、PTさんに見てもらおう。 → PTさんの助言を学校に

提示する位置が高い。



もう少し起こしたほうが安定して座れる。

児童の変容① 応答時間が短くなった



グラフ2 応答平均タイムの推移

宿題開始前は平均**12.02秒**→開始後は平均**4.63秒**に短縮

児童の変容② 姿勢のバリエーションが増えた

活動困難な姿勢



学校の学習

無理のない姿勢



→ 家庭の宿題



→ PTの助言後

活動姿勢の増加



教師がリハビリに

今後取り組みたいこと

- 多くの人に伝わるコミュニケーション手段のお試しをする。（iPad、OAK、スイッチ、VOCA等の活用）
- 個別の学習場面以外や放課後デイケアの場でも、自ら声やVOCAで人を呼ぶ経験をする。

考 察

① 客観的な実態把握の重要性

OAKとビデオ分析を組み合わせたアセスメント方法

② 反応を待つことの必要性

活動を切り替えるときの対応

③ 児童の生活をつなぐ有効性

宿題から見えた学習環境の改善と可能性の広がり

保護者への聞き取りから



- 普段の家庭生活では、テレビをつけて見せておくことが多かった。
- かかわる時間をなかなか多くとることができなかった。



宿題



- 学校の様子もよくわかり、子どもとかかわる時間が持てた。
- 週1回動画を見たり撮影したりするだけなので、親も負担なく取り組むことができた。

ありがとうございました。